

各種制度設計に係る意見・要望等

モデルケースの作成にあたり、令和元年5月9日付けで企業・団体等連携部会の構成員に行ったアンケート調査において、課題解決演習及びインターンシップの制度設計に対して寄せられた主な意見・要望等です。

1 課題解決演習（PBL）

- 新大学として、自治体と取り組みたい課題を分野、テーマなどで提示していただき、自治体側が提供できる内容とのマッチングを行っていただきたい。
- 地方においては就職等をきっかけに若者が市外に流出する傾向が高いことから、例えば、テーマとして若者の市外流出への対応策など、自治体の抱える課題に対応したものでいただきたい。
- 学生だけで解決策を検討すると、地域の要望や実情から乖離してしまう可能性もあるため、学生だけでなく地域や現場で住民と直接意見交換しながら解決策を模索する形式であれば、より効果的かつ実践的な学習につながると考える。
- 地域課題解決をテーマとしたワークショップ研修は多いが、短期間の現場視察と成果発表のみで終わるものがほとんどで、地域課題の根本的解決に結びつかないケースが多い。複数年がかりで課題解決策を模索するなど、長期間にわたることを想定したカリキュラムを準備するとともに、課題解決に至るまでの施策実施及び取組結果の検証・改善まで視野に入れた課題解決演習を要望する。
- 場合によっては、企業機密を表に出さなければならない場合があるかと思しますので、内容によると考えます。
- 学生なので期間が決まっていますが、短期的に解決できるような課題であったり、目に見えて効果がわかりやすいような課題の方がよいのでしょうか？長期的な課題の場合は、期間を引き継いでやるなどの対応もあるのかどうか？

2 インターンシップ

- 取組内容や期間について、長期のインターンシップ受入れなど、1つの実務を学生に任せることで、双方にとってメリットのあるものとなるようにしたい。また、従事していただく実務の内容についてしっかり精査する必要がある。
- 自治体でインターンシップを行う場合、単に単位取得のためではなく、公務員志望者や地域課題研究に興味を持つ学生など、将来の職員採用につながるような人選にしていきたいです。
- 2週間程度では仕事内容の概要すらつかめないと考えられますので、最短でも1カ月以上のインターンシップ期間の設定としていただきたい。
- 県内大手企業だけでなく、中小企業でもインターンシップ受入が浸透して、学生の職業選択の幅・視野を広げるような仕組みができればよいと思います。